

市野々王子

12世紀初期の巡礼記に登場する市野々王子は、おそらく熊野で最も古い王子社（熊野の御子神を祀る神社）のひとつです。Marketを意味する「市」が入った神社の名前は、この場所がもとは市場としての役割を兼ねていたことを示唆しています。

市野々王子神社

1873年、市野々王子は市野々王子神社と呼ばれる村社となりました。神社のそばにある巨大な石壁は郷倉（村の倉庫）で、この建物には必要な時だけ屋根がつけられました。内部はいくつかの部屋に仕切られていたため、石壁は小規模な屋外迷路のように見えます。かつて、ここには那智大社の米が保管されていました。

この神社が立っているのがもとの市野々王子と同じ場所であるかについては議論があります。100メートルほど離れたところに、お杉社と呼ばれる神聖な一角があります。お杉社には古い礎石と、御神体（神が宿るとされる物体）であるかつて太陽の女神である天照大御神が降臨したと伝えられる石があります。市野々王子の本来の場所はお杉社だったと伝えられています。

王子社とは

王子社は熊野三山の御子神を祀る諸神社でした。王子社は参詣道沿いに立っており、その中には簡素な拝所だったものもあれば、疲れた参詣者のために宿泊施設に加えて風呂まで提供したものもありました。王子社は古代の修験者によって保守されていた手向の神に起源を持ち、明治時代（1868-1912）初期に神社として独立するか廃社となりました。